



大特集だっ!! 新作情報局!!

▲さあ、新作の季節
春がやってまいり
ました。
フィルムが廻る!
脚本が唸る!
お金が飛ぶ!
そして
カメラを握る手が
震える! 行け監督!
—というわけで
新作情報です。



CINESALAD PROJECT



①斎藤拓生監督の新作『フィルムが廻る話』について
「エイ!」斎藤監督の新作がフランク・イン、男優作「死体ばんざい」から実に5年もたつてゐるも、期待してるよ。
斎藤作品のキーワードは、「友情」「青春」「ヒューマニズム」。覚悟は、オレみたいな外道には、とても聞けないジャンルなわけね、そんなわけで、彼が演出で戻ってくる時も、何の勘当もできないけど、努力は惜しまず提供します。
監督いわく「ノーコメント」という事で作品の内容については、ヒミツ。ただ、年末・年始にかけて撮影したフィルムはほとんどをボツにし、撮影しなおすという気合の人れよう。
「演出のボツよりも、作品の空気をみてほしい。」と斎藤監督は力説していました。キーン! (斎藤 卓郎)

クリスマスにシネサラダ上映会で予告編を見た人いると思います。斎藤監督の新作も動きだしているようです。
①は、斎藤監督の作品で、「サイバーゾーン・クライシス」。今回も16歳で!! 全編人形アニメーションになるとのことです。近未来のサイバーゾーンで繰り広げられるサイボーグ達の闘いが描かれるらしい。うーむ。
現在はシナリオもあがり、撮影用モデルの造形に入っているそうです。これは楽しみ。
一方、「PLAY BACK」で熱狂的ファンを持つ大宮秀典監督の作品は、未だ詳細が不明です。「読みその調」という仮題がささやかれています。それすらも定かではありません。しかし、準備は秘策に進行しているもよう。どちらも楽しみですね。(文芸/岸説)



鈴虫映画舎



②遠藤監督の新作について。
あの「GOD」18の遠藤第一監督の新作のタイトルが決定した。その名は「RAMBL」。内容やストーリーについては、アリスの同名の曲がカギとなっているらしい。ファンキーな映画を追求すると懸念するカントクは詳細を明らかにしないが、コンセプト・シナリオ作業は着々と進んでいるらしい。
キャスト・スタッフは未定だが、「今まででなんとかなってきたので、何とかできるでしょう。」とカントクはコメントしている。それもこれも「信心のおかげ」と、毎朝色紙に手を合わせ、気合をいれているという。社会人になっても張り続ける監督にとって、映画は戦場であらう。ひるまずに戦い続けてほしい。(岸説 清史)

③「ジャッカー電撃隊」情報
ある日、岸説君の友人が、岸説さんの新作映画の話が聞きました。と聞いて来た。彼の新作とは、「ジャッカー電撃隊」のことである。は、TVで同名の作品を放映していたあの作品を自分なりにリメイクしてアクション映画を作る準備を進めているところだ。聞いてるよ、「バトルムービー」とかいいやつだろ? 「そうです。で、岸説さん、車を買ったそうですわ。」 「オウオウ……」 「もっはんの時ですよ、車の炎上シーンに後ろ……」 「そんな話は一度も聞いてない。だいたい僕は、今使っているスクーターの調子がわるいという、新しいのを買おうかどうも悩んでいる状態なのだ。」 「それから、フカンで撮ったりするからクレーン車を借りるとか……」 「だからそんな話でできたのだから、それともスタッフでありながら、自分が知らないだけなのか。で、本人に聞いてみた。」 「えー、本当、すごいね。でもやってみないか。面白いけど。」 と本人は笑っていた。車の炎上のシーンはないけれど、それを燃えられるような迫力ある場面を撮ろうと彼は準備しています。(文芸/岸説)



『雲鬼龍』(仮)製作開始

連続殺人現場に現われる美少女!。そして謎の僧侶、血塗られた伝説の中にひそむ龍の血脈が今スクリーンの上に描きだされる!
鈴虫映画舎やシネサラダの活動を手伝って下さっている赤井純さんがいよいよ新作の製作に入りました。赤井監督は演劇や、アニメーションの製作にたずさわっている方で実写8mm映画製作は今回が初めて。
2月24日、141音響スタジオで出演者とともに撮影スケジュールについて打合わせが行われました。主演は、龍のいけにえになってしまう少女役に宮城学院大学演劇部の岡井美華さん(なんと可愛!!)、殺人事件を追う新聞記者役に、おがシネサラダの岸説清史が選ばれました。
由緒ある寺院、謎の舞いなど、伝統的な日本の映像に加え、龍の出現などSFXを駆使したシーンがあるというので今からとても楽しみです。公開は'92年以降になるということです。(岸説)



R&T



東北学院大学工学部 映画研究部

ブルブル……ガチャ!
男「もしもし、和子ちゃん、部の活動どうなってる?」
女「えー盛り上がってますよ。なんか三城センパイ(「逃亡」の監督)が、恋愛モノ撮ってるってし。」
男「え!アイツがそんなの撮るの?」
女「うん、なんか紅の映画(「いない」)の影響をうけて撮るんだって。」
男「へー、どんな話?」
女「オムニバス。別れた二人がよきもどき話だって。」
男「他の奴の作品は感涙に浸るで?」
女「うん、工藤クンの作品(「ハンター-2」)も中休みとってるし、福島クンの特撮モノ(「アーミー」)もいざづまってるみたい……」
男「ふーん大変だね。」
女「でも一年生はずい盛り上がってるんですよ。」
男「どんな風?」
女「もう、企画が花開しちゃって。」(岸説)
男「ハハ、オレもガンバロー。」

はみだしインフォメーション

□新作と言えば、びあドド人選作家のクマガイコウキ監督が、新作を企画中のもようです。かなり大きなプロジェクトらしいのですが、詳しい情報はまだ公開されていません。
果たしてどんな作品なのでしょう? 期待は募るばかりです。
□あのESPアクション「CHASER・CHASER」のMAX ENTERPRISEは、現在のところ冬眠中。(?) 新作については「ぼちぼち考えているところですね」とのことです。未公開の作品もあるとのことですし、もっと作品を見たいですね。期待してます!
□あ、新情報です。志子田監督の「宇宙王子バヤン」が5月中旬「えび天」で放送決定。うわあ。

東北学院大学映画部

12月の上映会で客があまり来なかった事をきっかけに、学院大映画部はその志念に燃えている。新作状況としては題名は未定だが石川監督のゴダール(ジャン・リュック・ゴダール監督)的な映像手法が期待でき、出演者も一年生を主人公に起用し、新作好評だった「答えない質問」を上回る作品になりそうだ。出演者も一年生を主人公に起用して近頃の演技が期待できそうだ。
また、学院大映画部を代表する監督の一人である西岡三太郎氏はF、Fで好評だった「重吉の恋」の振り直しと新作「シャーロック・ホームズの冒険」を企画中です。監督の軽快なポップテンポとシュールなギャグがもりこまれ期待できそうです。後、山崎国太郎監督の新作不評だった「ちんぴら」の改訂版を製作中。彼はこの冬に映画の勉強をし「映画の実験をします」と意気込みを感じます。
また、やまぢ監督のアクション物、八巻監督の青春物などまだシナリオ段階ですがよくよく製作に向かって動いています。このように我々学院大映画部の目標として前回の上映会を越えろと6月30日の141ホールの上映会に向かって三段ズームしているところなんです。



宮教大 ZOOMY

'90.F(フィルム・フェスティバル)で「ビデオマン」(伊藤孝峰監督)を出品し、ホラー・エンタテインメント(ア)というジャンルを確立した(私はこれが一番おもしろかった)宮教大さんに、新作について聞いてみました。
「たゞいま新人部員数増の為の作品を企画募集中です。まめに部員が集まってどれがいいか、話あっているところです。」
「どんな企画が上がっているのですか?」
「具体的に話せませんが恋愛物とかホラーっぽいとか青春物とかです。できあがりを見てくださいればどんなジャンルかわかりますよ」
期待してますががんばってください。(岸説)

□余り写真を載せられませんでした。まだまだ他にもたくさん企画が発動中!!



詳しくは報をまて!